

みき通信

日本共産党 町議会議員
くぼたみき 活動報告

第84号 2018年 9月30日

発行 がんばれ くぼたみきの会

連絡先 875-7126 (阿部)



政治を変えて

— だれにもやさしい — 安心のくらしに

災害大国日本は、6月から8月にかけて、大阪北部地震、西日本豪雨災害、北海道地震と相次いで大きな災害にあいました。今、国の災害への危機管理が問われています。

西日本に豪雨が発生した夜、安倍首相、小野寺防衛相や岸田政調会長など、自民党幹部は宴会「赤坂自民亭」に参加しており、災害対策の初動が遅れ批判を浴びました。さらに安倍首相は、災害対策に当たるべき国土交通相を国会において、カジノ実施法の成立を強行させました。

アベノミクスは、円安や株高で企業や大資産家の儲けを増やしましたが、労働者の所得にも家計の消費にも回っていません。「待機児童ゼロ」「介護離職ゼロ」はかけ声だけで実現せず、医療や介護の現場では深刻な人手不足です。

自民党の総裁選に向けた世論調査を見ても、国民は景気や雇用などの経済政策、医療や介護、年金など社会保障の充実を願い、憲法改定は望んでいません。

国民の望む政治とは程遠く、森友・加計問題、公文書改ざん・隠ぺい、セクハラ発言など自民党の劣化が進む中で、野党共闘が前進しています。野党合同ヒアリングは118回、共同提出した法案は20本。2018年度予算の組み替え動議を提出するなど、野党間の情報交換や意志統一が深化して力を発揮しています。

忘れさせる、あきらめさせる、国民を分断する宣伝や、目先の利益、美しい言葉にごまかされず、市民と野党の力で一日も早く、国民が安心して暮らせる政治にしたいものです。

平成29年度 葉山町のお金の行方

町議会議員 くぼた みき

決算特別委員会で、29年度一般会計歳入104億円、歳出98億7千万円がどのように使われたか、千円単位の金額の動きにも注視し様々な指摘事項が出てきます。

新たに大型予算の「クリーンセンター再整備計画」「学校給食センター建設」が計画された為、28年度に676万円をかけ策定した「公共施設等総合管理計画」は、実施計画を策定せずというものでした。公共施設の寿命や修繕が必要な箇所を挙げるだけあげ、これまで懸案事項でありながら予算計画にはなかった施設を作るので、現存の公共施設に手を入れる計画は作らなかった、というもの。施設の老朽化は待ってくれません。先送りにするのではなく、並行して住民参加の基で、進めるべきと考えます。

また、葉山町の最大の魅力である海や山の環境を守り、整えるために多くのボランティア団体があります。ここ数年出没するイノシシ対策として捕獲・やぶ刈りを行ってくれる団体もあります。

やぶは直ぐに伸びてしまう為、それぞれの団体が趣向を凝らし、そばや小麦、花などを植えています。

「葉山里山愛好会」では毎週刈り取るやぶの処理に悩まれていました。

「二子山山系自然保護協議会 寺前谷戸復元プロジェクト」では、休眠していた田んぼを少しづつ広げ、先日、多くの方が稲刈りを楽しまれていました。それらには、ボランティア活動された日々の積み重ねがありました。

町長が言う「山を活用した構想」は、29年度から3年間の計画で、新たに「葉山の魅力を高める実行委員会」が発足。委員報酬はないが、国から地方創生交付金、町から補助金もあります。活動内容や目標が現在活動されているボランティア団体と重なるところも多く、町長の構想は、町民主体の既存のボランティア団体と共有出来なかったのか疑問が残ります。「葉山の魅力を高める実行委員会」そのものの周知や活動内容の継承も課題です。



寺前谷戸復元プロジェクト 稲刈り